



平成 29 年 11 月 7 日

各 位

会 社 名 千代田化工建設株式会社
 代表者名 代表取締役社長 山東 理二
 (コード番号 6366 東証第一部)
 問合せ先 財務エグゼクティブ GM 楠 真治
 (TEL 045-225-7745)

業績予想の修正に関するお知らせ

平成29年5月12日に公表した平成30年3月期の通期連結業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 平成30年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	430,000	8,500	10,000	5,000	19.31
今回修正予想 (B)	500,000	△9,500	△8,000	5,000	19.31
増減額 (B-A)	70,000	△18,000	△18,000	0	-
増減率 (%)	16.2%	-	-	0	-
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	603,745	15,680	△3,080	△41,116	△158.76

2. 通期連結業績予想修正の理由

売上高については、海外 LNG プロジェクトでレインバース契約による建設工事が進捗したことにより、前回発表を上回る見通しとなりました。

営業利益及び経常利益については、一部の海外 LNG プロジェクトにおける順調な進捗などの増益要因がある一方、米国にて遂行中の LNG プロジェクトにおいて天候不順や想定を下回る現場作業員の生産性などに起因する追加コストを計上したことから、前回発表予想からそれぞれ 180 億円の減となる△95 億円、及び△80 億円を予想しております。

親会社株主に帰属する当期純利益については、本日別途公表した「特別利益の計上に関するお知らせ」の通り、イーマス・千代田・サブシー・リミテッドに係る関係会社事業損失引当金の残額を取り崩し、当第 2 四半期に 121 億円を特別利益として計上したこと、また米国 LNG 案件のコスト増加に伴い、契約主体となっている米国子会社において、連邦法人税に係る還付見込み額を織り込んだことなどにより、前回発表予想の 50 億円から変更ありません。

3. 見通しに関する注意事項

この資料に記載されている業績見通しは、種々の前提に基づく将来の予想であり、実際の業績は様々な要因により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。従いまして、これらの見通しのみに依拠した判断をされることは控えるようお願いいたします。

以 上